

平成29年度 社会福祉法人 花工房福祉会 法人事業報告

社会福祉法人制度改革の本格施行が始まった平成29年度は、評議員及び役員(理事)並びに評議員会・理事会の権限・責任の明確化など法人の運営体制の整備を適切かつ円滑に図って参りました。また同時に財務・諸表等の整備・公表もきちんと行い自立した経営体制を確立し運営の透明性を図って参りました。その一方で事業所運営の課題として掲げた3点については、直面する課題を一つひとつ改善していかなければならないと実行に移して参りました。

第一の利用者増に対する作業場の確保は、大館様のご協力をいただき事業所として活用する諸手続きを経て平成29年12月～改修工事に入り年明けから「エコーンファミリー今井事業所」として活用できるようになり、快適で安全な生活・効率良い作業を行なっていけるようになりました。それに伴って本体も生活介護の利用者が広々と作業場を活用できる配置換えも行なえました。

第二の共同生活援助住宅 3棟目の建設につきましては、土地の確保が出来ましたので、長野市に補助金の申請を行った所受け付けていただき29年度中には市の審査はすべて終了し今は、国の審査を待つばかりといったところです。

第三の地域における花工房福祉会としての役割を見つけ積極的に活動していくでは、法人制度改革にもうたわれていたので、今までのように施設を出て活動するだけでなく地域住民の役に少しでも立てればと、作業部分の関わりをより多くしていくことが出来、障がい者理解はより一層深まったかなと思いました。

又、建物・設備の部分では、特に大きな修理・買い替えなどの費用負担はありませんでしたが、施設を開設して17年経過していることからして不備が目立ちだし経費が年々膨らんでいる現状は否めません。一方GHさんふれんずでは、給湯設備の交換などでの支出がありました。

1、 理事会・評議員会及び監査の開催

(1) 監査

期 日 平成29年5月25日(木)

場 所 花工房エコーンファミリー事務所

監査事項 平成28年度の事業執行状況及び財産状況について、関係帳簿及び証拠書類の照合監査を受ける。いずれも適正であることが認められました。

(2) 第1回 理事会

期 日 平成29年5月28日(日) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂

議 題 第1号議案 経理規定の一部改正について
第2号議案 平成28年度事業報告(案)
第3号議案 平成28年度収支決算報告(案)
監査報告

(3) 第1回 評議員会

期 日 平成29年6月19日(月) 午後1時～

場 所 花工房エコーンファミリー相談室

議 題 第1号議案 経理規定の一部改正について
第2号議案 平成28年度事業報告(案)

第3号議案 平成28年度収支決算報告(案)

第4号議案 理事・監事の選任について

(4) 第2回 理事会

期 日 平成29年6月28日(水) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー相談室

議 題 第1号議案 理事長の選任について

(5) 第3回 理事会

期 日 平成29年10月23日(月) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー相談室

議 題 第1号議案 法人の現況報告について

第2号議案 運営規程の一部改正について

第3号議案 GH・短期入所の助成事業に関わる指名入札

報 告 ①長野市指導監査報告

②大館宅借用進捗状況

③土砂災害防止法について

④ GH・短期入所の防火設備に関わる事項の進捗状況

(6) 第4回 理事会

期 日 平成29年12月25日(月) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階作業室

議 題 第1号議案 大館宅活用の仕方について

第2号議案 運営規程の一部改正について

報 告 ①GHの防犯設備完了について

② GH3棟目の建設に関わる現状について

(7) 第5回 理事会

期 日 平成30年3月26日(月) 午前10時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂

議 題 第1号議案 平成29年度補正予算(案)

第2号議案 平成30年度事業計画(案)

第3号議案 平成30年度収支予算(案)

第4号議案 法人事業の現況報告

(8) 第2回 評議員会

期 日 平成30年3月26日(月) 午後2時～

場 所 花工房エコーンファミリー2階食堂

議 題 第1号議案 平成29年度補正予算(案)

第2号議案 平成30年度事業計画(案)

第3号議案 平成30年度収支予算(案)

報 告 ①今井事業所開所

②GH3防犯・防災設備設置

③GH3棟め建設の現況

2、職員・利用者の動向（平成30年3月末現在）

職員数 77人（正規22人・嘱託14人・パート41人）

採用 男性 2人（正規1人・パート1人）

女性 6人（正規2人・パート4人）

退職 男性 1人（正規1人）

女性 7人（正規3人・パート4人）

利用者 99人（男性65人・女性34人）

入所 6人（男性3人・女性3人）

退所 2人（一般就労 男性1人・他事業所 男性1人）

3、事業内容

（管理部門）

① 健康管理・健康診断 健康づくり事業団の協力で4月24日・25日と12月14日・15日に実施

歯科検診 5月15日に宮本歯科医の協力で実施

良い歯の県表彰 優秀賞受賞

② 食事提供 提供日数 240食

川中島 一富士フードサービスに事業委託

一食515円（食事提供加算で実費300円）

朝陽 弁当持参

わくワーク宝来 3種類の中から選択

ゆるくら デリクック千曲 4種類の中から選択

③ 家庭との連携 誕生月の支援会議を実施

エコーンつうしん 年3回発行

連絡ノートの活用

家族会に参加

④ 苦情対応 お金の扱いについて・商品にカビ・賞味期限切れ

⑤ 権利擁護・虐待防止

利用者への言葉遣いで、聞く人によっては虐待ととれる案件が発生した。全職員で虐待とはについて研修をおこなった。

⑥ 防災安全 車の保有台数も増え、又多くの職員が運転をする機会が増えた関係で、車の破損トラブルが急増した。そんな中追突・人身・縁石乗り上げと大きな事故が3件起きてしまったので、保険業者さんによる安全運転講習会を行った。

一方、利用者間のトラブルでの怪我・外出中の転倒による怪我也数件見られた。原因をしっかりと究明して繰り返さないよう、話し合った。

避難訓練は年2回各事業所単位で行った。

⑦ 人材育成 人を相手に人が行う対人サービスなので、職員の質を高めることが重要となっているが、年々応募者が減少する中、確保した職員はきちんと育成していくことの大切さを実感した年でした。

そんなの実態の中で、勤務年数・携わる事業内容・担っている立場による研修を実施して来ました。

新入職員集中研修・職員会議（毎週）エコプロ会議等の定例の施設内研修に加え、

29年度は「記録の取り方」と題して長野大学越田明子先生の講義を3回に渡って受けました。

施設外では、リーダー養成ゼミナール・いい働く場づくり隊・社会福祉士基礎研修・

工賃向上基礎研修・中堅職員研修・障害者就労支援施策の動向から食品表示セミナー・接客セミナー・コンプライアンス研修・苦情対応実践講座・権利擁護推進セミナー・相談支援従事者研修・キャリアマネージャー養成講座等皆が参加できるよう研修計画をきちんと立てて実施し、職員会で報告も行ないました。

⑧ 地域交流

交流 川中島地区民生児童委員・川田小4年生・川中島小6年生
信大附属中2年生・川中島中福祉委員

実習 長野大学生・社会福祉専門学校生・長養生・稲養生・篠ノ井東中生
長野市立長野高校生・川中生・広徳中生・附属中生

視察 県人権擁護委員・長野市民生児童委員・特別支援学校保護者

(事業部門)

① 日中活動支援事業

多機能型事業所 エコーンファミリー（川中島・朝陽）
生活介護・就労支援・就労継続支援B型

就労継続支援B型 わくワーク（三輪）・炭房ゆるくら（篠ノ井）

② 共同生活援助事業 「さんふれんず」・「さくら」

③ 短期入所事業 「ゆうゆう」

④ タイムケア事業

⑤ 相談支援事業

①～⑤までは、別紙にて報告

平成 29 年度多機能型事業所エコーンファミリー事業報告

1、方針

障がい者が地域の中で自立した生活が送れるよう「はたらく」「くらす」を支援する事業所としての役割を、職員一同が自覚し法人理念「ともに生き ともに暮らす」を目標に日々実践をして参りました。

利用者一人ひとりが、元気に通ってこれる「居場所」としての事業所の役割としては、健康管理を最優先として支援を徹底して参りました。その成果として 90%以上の出勤率を確保できた利用者が半数以上ありました。一方、障がい特性を活かして頑張る「活動の場」「出番」においては、利用者一人ひとりの得意な仕事・やってみたい仕事・やってほしい仕事など地域から掘り起こして準備する中で、適正に配置し技能を高めやりがいを見出していきました。これらは、個別支援計画にもしっかりと反映され、短期・長期にわたり目標を持って活動が進められて行きました。

また、地域に支えられた事業所であることも忘れずに、障がい者理解を深めていただくために地域と連携した活動・販売等実践して参りました。

皆自覚して交流の場を設定したり、積極的に地域の方々とふれあい場を設けたりしながら日々の活動を推進して来ました。

所得保障の部分では、前年度より工賃は全体でアップする事が出来ました。

1、重点目標

若い職員が増える中、支援の充実においては具体的な場面を捉えて、助言をしたり、年数に応じた研修には積極的に参加を促して学びの場を作って参りました。また、同年代の職員同士が意見交換が出来るよう、情報交換の場には必ず参加をするよう話してきました。

一方、担当する業務では、G 会議を充実させ少人数の中で、アイデア・若者ならではの発想を出せる場を作り肩ぐるしくない雰囲気の中で自由に意見を言えるよう工夫して参りました。

中堅職員は今に満足せず力量・知識を磨けるよう促してまいりました。

又新任職員の良き相談役としての役割を担えるゆとりを持ちつつ法人をしっかりと支えることも意識してもらいました。

危機管理の部分では、車に関する事故が年々増える状況が見られましたので。職員研修として安全運転講習を行いました。

2、事業内容

職員・利用者数（平成 29 年 3 月末現在）

職員数 47 人（正規 11 人・嘱託 8 人・パート 28 人）

採用 男性 1 人（パート 1 人）

女性 5 人（正規 2 人・パート 3 人）

退職 男性 1 人（正規 1 人）

女性 4 人（正規 2 人・パート 2 人）

利用者数 63 人（男子 39 人・女子 24 人）

入所者 4 人（男子 3 人・女子 1 人）

退所者 1 人（男子 1 人一般就労）

3、 日中活動支援

- (1) 生活介護事業 20人(23人)
- (2) 就労継続支援B型事業 30人(34人)
- (3) 就労移行支援事業 10人(6人)

各事業の事業報告は、別紙による。

4、 余暇活動支援

1日レク 今年度から各Gごとに企画して行う

ハーモニー夢まつり 10月28日

土曜活動 年26回行う

水泳教室 年23回

音楽療法 年25回

6、 工賃支給

	平成28年度	平成29年度
売上総額	55391050円	55333009円
工賃支払総額	20710600円	22361750円
平均工賃額	28765円(63人)	29579円(63人)
就労継続B型	38137円(30人)	40789円(33人)

1. 重点目標

- ① 作業や活動を通して、地域交流・障がい者理解の推進を実践する。
- ② 家庭と連携を図り、利用者一人ひとりの健康や特性に留意し、個々の意思を尊重した生活習慣の支援。安全を最優先とし、安心して過ごせる環境を整える。

2. 利用者・職員数（平成30年3月末日現在）

利用者数 11名（生活介護 11名）

職員数 8名（サービス管理責任者1名／生活支援員6名／看護師1名）

3. 事業成果

- 生活全般支援／健康管理、食事、更衣、排泄等
- 配達・販売／パン・おたっしや豆富・花等の配達、販売
- 回収作業／牛乳パック・古紙・アルミ缶の回収、分別
- 施設内活動／小物作り・音楽療法・ダンス教室・料理体験・花壇作り・季節行事・誕生日会・アート活動
- 施設外活動／水泳教室・バス外出・カシス・ブルーベリー畑の管理 など
- 地域ボランティアの協力による活動／マイクロバス外出（ボランティアの運転）、施設行事での付添い、夢まつりの運営・付添い、絵本を読む会
- 交流 等／川中島地区民生児童委員・川中島中学校福祉委員会・職場体験
北信地区レクリエーション参加・夢まつり
- 外出レク活動
 - ◎ 1日レクリエーション：
上田市 真田丸特別展見学(5月)、戸隠散策(7月)、小布施ハイウェイオアシス(9月)、
上田市 生島足島神社へ初詣(1月)
 - ◎ 半日レクリエーション：
お花見外出(4月)、坂城バラ鑑賞(6月)、権堂七夕鑑賞(7月)、ジェラートを食べに行こう(8月)、カフェに行こう(11月)、クリスマス会(12月／AB合同)、全国中学校スケート大会見学(2月)、ナイスハートバザール参加(2月)、モスでカフェ、まとめの会（家族参加有り）(3月)

4. 売上結果 【 総売り上げ目標:1,250,000円 実績:1,503,941円 】

① 小物部門

（小物・カシス・ブルーベリー、糸コン、スープ等の売上分）

目標:1,150,000円 実績:1,238,933円

② 受託小物部門

（パン受託配達・資源回収・ロンドロール・自動販売機手数料、他）

目標:100,000円 実績:265,008円

1. 重点目標

- ① 遠隔地リヤカーの新規開拓、畑作業（大豆、野菜）の充実を目指す。
- ② 利用者一人一人の社会性、能力に応じた適材適所の作業配置の取組み、それに伴った職員配置をする。

2. 利用者、職員数

利用者 12 名（生活介護 12 名）

職員数 12 名（内 サービス管理責任者 1 名 生活支援員 8 名

職業指導員 2 名 看護師 1 名）

3. 事業成果

- ① 豆富に関しては日々の売上の数字を追う事が出来なかった。豆富製造者との連携がうまくできなかった。
- ② 麺に関しても在庫が無くなってから注文するといった状況で売り上げの数字を追う事が出来なかった。
- ③ 受託作業に関しても内職の作業があまりなかった。その代わりにポスティングも今井ニュータウン内で配布禁止の場所があったり、民家でもそのような場所があったりして配布戸数の減少が影響したが、一番はBグループの売りである「足で稼ぐ」事をしなかった。

4. 売上結果

目標：	1 1 0 0 万円	結果：	10,218,190 円	(▲781,810 円)
豆富：	9 9 0 万円	結果：	9,695,540 円	(▲204,460 円)
麺類：	9 5 万円	結果：	440,140 円	(▲509,860 円)
受託：	1 5 万円	結果：	82,510 円	(▲67,490 円)

平成 29 年度 就労移行事業 事業報告

1. 事業方針

① 事業内容での重点

施設外就労、職場実習を中心に、企業で「働く」機会を多く提供し、就労支援を推進する。

② 利用者支援に関わる重点

就労に向け意欲を持って作業、必要な訓練に取り組めるよう、個別支援計画に沿って利用者一人ひとりの特性、強みが活かされる作業、必要な訓練、作業工程の工夫を図り支援する。同時にご家族に対しても就労が適性であることを伝え理解をいただく。

2. 利用者・職員数（平成 30 年 3 月末日現在）

利用者：定員 10 名 現員 6 名

職員数：サービス管理責任者 1 名

就労支援員 1 名

職業指導員 2 名

生活支援員 1

3. 事業成果

① 施設外就労を中心に、企業で「働く」機会を提供することで、個々のスキルアップにつながった。

○施設外就労先 7 件（内新規 4 件 ㈱匠電舎・藤澤農園

・(有)ヌーベルエンタープライズ・さんさんふぁーむ)

② 個別支援計画に基づき、利用者一人ひとりの特性、強みが活かせる作業への配置、作業工程が分かりやすくなるように手順書の見える化をするなどの支援を行った。また、それぞれの課題も明確にして本人、家族と共有し課題克服できるよう支援を行った。

○就労アセスメント：3 件

○就労学習会：週 1～2 回実施（就労継続 B 型利用の希望者も参加）

○職場見学：株式会社コヤマ（7 月 19 日）4 名参加

○就職面接会：（11 月 9 日）4 名参加（就労継続 B 型利用者含む）

各自 4 社面接 就職に至らず

○企業説明会：（2 月 8 日）2 名参加 各自 2 社説明を受ける

○就職者のフォローアップ支援：8 名 適時

4. 実績

就職者 0 名（就労継続 B 型利用者 1 名就職）

平成29年度 就労継続(パン・スイーツ)事業報告

1、 重点目標

- ① パンとスイーツの売り上げ=収入の主力であることを忘れずに、売り上げの向上と、お客様の為、様々なことにチャレンジし、楽しみながら仕事をする事で「エコーンファミリーのパン、スイーツが好き。」と言ってもらえるようなパン&スイーツグループにする。
- ② 「働きたい」の思いを支援し、「役に立つ」「必要とされる」「出来た」ことの喜びを利用者さんと職員が共有できる支援を行い、職員が行っている作業は、いつか利用者さんも行えるように技術向上を図る。

2、利用者、職員数（平成30年3月末日現在）

利用者 7名 （内 継続B型 7名）

職員数 11名 （内 職業指導員8名 生活支援員3名）

3、 事業成果

- ① パン、サンドイッチ類の開発、製造、販売
新作パンをグループ全体で考え製造し販売した。ポップ等売り方も販売員の意見を参考にしながら作成し売り上げに繋がった。
- ② ビオクラ食養からの受託スイーツ製造
注文数が減ってしまい昨年度よりは売り上げが減ってしまった。衛生管理を徹底し新規の注文をいただけるようにビオクラ食養本社と話を進めている
- ③ スイーツ類の開発、製造、販売
職員の発案でスノーボールを開発し製造したところ販売先から注文を頂くことができたスイーツの種類を増やし中々パンの売り上げが伸びないところに配置し売り上げを補うことが出来た。
- ④ ヌーベルエンタープライズからの受託スイーツ製造
ヌーベルエンタープライズからスコーンの受注先としてプランニングエメを紹介していただきそこで大きな売り上げに繋がった。しかし定期的に注文があるところではないので在庫を抱えてしまうことがあった。
- ⑤ 利用者の技術向上
成型担当をローテーションで配置し全ての成型を利用者全員で出来るように工夫を行った。しかし利用者によって成型が難しいものがあったが新たな利用者の得意分野を見つけることが出来た。その結果作業配置を工夫しバランスよく作業量を振ることが可能になった。

4、 売り上げ目標

売り上げ結果

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 14,650,000円 | ① 21,635,710円 |
| ② 17,550,000円 | ② 9,174,995円 |
| ③ 1,000,000円 | ③ 588,630円 |
| ④ 500,000円 | ④ 1,360,052円 |

総売り上げ目標 33,700,000円(わくワーク、ゆるくら分を含む)

総売り上げ結果 32,759,387円 (わくワーク、ゆるくら分含む)

平成29年度 マルチグループ 事業報告

1. 重点目標

- (1) 花の生産時期(春、秋)は花の販売や植栽に力を入れ、それ以外の時期は施設外就労に積極的に参加出来るようにする。
- (2) 作業を通して社会性・働く力を向上させるように支援する。

2. 利用者・職員数(平成30年3月末日現在)

利用者 33名(内 継続B型 27名 就労移行 6名)

職員数 12名(内 サービス管理責任者1名(兼任) 就労移行支援員1名 職業指導員6名
生活支援員3名 目標工賃達成指導員1名)

3. 事業成果

- (1) 花部門では、春・秋の花のシーズンに、リヤカー販売等へ出掛ける機会を増やすなどし、前年度比で60万円ほどのプラスとなった。また(株)コヤマにて工場内で新たに植栽作業をさせていただけることとなり、2回作業を行なった。
- (2) 受託は新規作業(藤澤農園、さんさんふぁーむ)が増え、既存事業も匠電舎や山崎農園収穫作業等が軌道に乗るなどしたことで、前年度比で70万円程プラスとなった。内職作業は佐川急便やヤマト運輸の封入作業を引き続き行なった。
- (3) 施設外就労では、作業に入るメンバーをある程度固定化することで作業スピードが向上し、特に山崎農園きのこ紙巻き作業では職員が直接作業に入らなくても1日で1部屋終わらせることが出来るようにまでなり、作業効率が大幅に向上した。作業が固定化することで、個々の作業に対する意欲の高まりも見られた。
- (4) 販売を通して挨拶等をすすんで行なう姿も見受けられるなど、地域の方々とも交流することができた。また施設外就労では企業で働くにあたりどのような意識を持って仕事に取り組むべきか等貴重なアドバイスもいただき、就労について各々が考える良いきっかけとなった。

4. 売上結果

・受託、施設外就労部門 売上目標 3,300,000 円 売上結果 5,065,537 円

・花部門 売上目標 5,600,000 円 売上結果 6,480,542 円

・計 11,546,079 円

平成 29 年度 朝陽事業所 事業報告

1. 重点目標

① 事業内容での重点

地域に根付いたエコーンファミリー朝陽事業所・おまめ喫茶そいていとなるよう、地域の方たちとの関わりを大切に、集客に努める。

② 利用者支援に関わる重点

集団生活や仕事をする上で必要なマナーや礼儀を身につけられるよう、地域の方々や仲間との関わりについて重点的に支援をしていく。

2. 利用者・職員数(平成 30 年 3 月末日現在)

・利用者数 2 名(内 就労継続支援 B 型 1 名、生活介護 1 名)

・職員数 4 名(内 職業指導員 2 名 生活支援員 2 名)※生活支援員 1 名 11/30 退職

※生活支援員 1 名 1/22 新規採用

3. 事業成果

① お豆腐の注文販売を新規開拓した先(企業さん)では、利用者さんの顔や名前をだんだんと覚えていただくことが出来、対話する機会が増えた。上手に話が出来ない利用者さんは、お客様と握手をしていた。また、利用者さんの商品説明等が上達してきたため、既存の販売先でも、お客様と丁寧な言葉遣いで対話する姿がよく見られた。

② 毎月第 1 木曜日の午前 2 時間は、朝陽地区住民自治協議会様主催の認知症オレンジカフェ、名称「まめカフェ」として喫茶を貸し出した。デザートとドリンクをご提供。喫茶にお客様が入りきらないほどご利用いただいております、「まめカフェ」として「おまめ喫茶そいてい」が周知されている。

休日営業;4/22(土)・5/20(土)・6/24(土)・7/22(土)・8/19(土)・9/30(土)・11/23(祝・水)・1/13(土)2/17(土)を営業日として設け、土曜祝日営業限定メニューと価格でお食事をご提供した。土曜活動とのコラボも実現。総売上(食事のみ)153,050 円

③ 新商品として、「まめらか黒ごま豆腐」の商品開発を行い、6 月 1 日より販売を開始した。まめらか黒ごま豆腐を目当てに来店されるお客様や、配達先も増加した。

④ ビオクラクッキーのシール貼りは利用者さんも確実な上達が見られた。

ほっとパルのポスティング作業も、毎月定期的にお仕事をいただくことが出来、事故怪我なく安全に行うことが出来た。

4. 売上目標

売上結果

① 豆腐・・・・・・・・・・2,400,000 円	2,736,160 円(新規充填豆腐 266,180 円含む)
② 喫茶営業・・・・・・・・・・1,000,000 円	967,720 円
③ ビオクラクッキー・ほっとパル・・・180,000 円	235,440 円

平成29年度 就労継続支援B型事業所 わくワーク事業報告

1、重点目標

(1) 事業内容での重点

社会に必要とされ、役に立っていると実感できることを前提としながら、所得の保障が望める事業を実施し、高い工賃の支払を目標とする。

(2) 利用者支援に関わる重点

利用者さん一人ひとりの「その人らしさ」を踏まえながら個々のニーズを的確に汲み取り、サービス等利用計画と個別支援計画に沿って支援を行ない、「その人らしく」生きる事を支援する。

2、職員・利用者数(平成30年3月末日現在)

・利用者:定員20名

:現員18名

・職員:6名

サービス管理責任者:1名

生活支援員:1名

職業指導員:3名

目標工賃達成指導員:1名

平成29年4月 採用 1名

平成30年3月 退職 1名

3、事業成果

(1)利用者さん一人ひとりが、“必要とされている、役に立っている”実感が持てるように「楠ワイナリー」「ころぼっくる」等の地域産業に寄り添った事業を積極的に取り入れた。また、こうした環境下で持てる力を十分に発揮する事ができる様“褒める支援”を心がけ、結果として褒められる喜びが誰かの何かの役に立っている実感に触れられる事や、様々な人との交流等を得て柔軟な対応力や責任感・使命感が養われた。

さらに、事業を施設外就労に重点を置くことで作業単価が上がり結果として高い工賃の支払いが可能となった。

(2)利用者さん一人ひとりが、その人らしく元気に通い続ける事ができる“居場所”として、利用者さんの希望する余暇活動の実施や健康診断の実施等、提供サービスの充実を図った。さらに、“その人らしさ”を実現するため一人ひとりの“やりたい”を尊重し作業員配置を行った。結果として“自分の仕事”を持つ事で業務のモチベーション維持や苦手作業の克服へとつながり、業務への愛着・責任感・使命感が養われた。

4、売上結果

	平成28年度	平成29年度
売上総額	6,686,738円	7,901,352円
工賃支払総額	4,586,900円	5,686,150円
平均工賃額	29,593円(14人)	31,766円(16人)

平成 29 年度 就労継続支援 B 型事業所 炭房ゆるくら事業報告

1、重点目標

(1) 事業内容での重点

薪事業の拡大に伴い、薪ステーションの機能の充実を図り、薪の安定供給、顧客拡大を目指す。

(2) 利用者支援に関わる重点

①個別支援(個々のストレングスに着目し、やる気、やりがいにつながる作業を計画し、個別支援計画における課題の解消、自立に向けた支援をする。)

②チーム支援(施設外就労では、挨拶、身だしなみ、礼儀など習得しながら、一般企業で働く力をつける。)

2、職員・利用者数(平成30年3月末日現在)

利用者:定員:20名

現員:17名

職員:7名

サービス管理責任者 1名

生活支援員 2名

職業指導員 3名

目標工賃達成指導員 1名

3、事業成果

(1) 薪ステーションへ薪を大量に積み、シーズンになり、顧客の需要に応えられる体制がとれた。サイズの好みもあり、一部仕入れて対応し、来年度につながりも持てた。

(2) チーム支援について身だしなみ、あいさつ等施設外就労の場中心に、訓練してきた。利用者 1 名は企業実習をして力をつけることが出来た。

4、売上目標・成果

	売上目標	売上結果
(ア) 薪炭事業	4,580,000 円	5,002,695 円
(イ) 施設外就労	3,520,000 円	4,066,172 円
(ウ) 野菜(大根、白菜等)	150,000 円	35,180 円
(エ) 花豆、花 その他販売	650,000 円	769,644 円

	平成 28 年度	平成 29 年度
売上総額	8,819,302 円	9,873,691 円
工賃支払総額	4,930,775 円	5,339,650 円
平均工賃額	25,125 円(17 名)	29,998 円(17 名)

平成 29 年度 グループホーム「共同生活援助」事業報告

1. 事業方針

利用者の意志と人権を尊重し、関係法令を遵守するとともに、出来る限り居宅に近い環境の中で利用者の障害特性を理解した上で、心身の状況や意向を踏まえた食事、排泄、入浴等の生活全般の支援を行なう。

2. 利用者・職員数(平成 30 年 3 月末日現在)

<利用者>

	さんふれんず	さくら
定員	5名	6名
現員	男性 5名	女性 6名

<職員>

職種	員数	常勤		非常勤	
		専従	兼務	専従	兼務
管理者	1		1		
サービス管理責任者	1		1		
生活支援員	9	2		7	
世話人	2	2			
事務員	1		1		

3. 事業成果

- ① 各種生活援助サービスの提供、共同生活介護サービスの提供
- ② 体制 月～日曜 (GW・お盆・年末年始休暇有) 24 時間(夜間支援体制)
→ 年間利用回数(一人平均)さんふれんず 320 回/さくら 233 回
- ③ 連絡会議 → 実施回数 年 2 回(世話人・管理者・サービス管理責任者)
内容:利用者の様子・支援について・その他業務についての連絡・確認
必要に応じてその都度行った。
- ④ 家族との懇談 → 年1回～その他必要に応じて実施した。
- ⑤ 研修 → 暮らし部会(長野市ふくしネット)や地域支援部会(知障協)が開催する、管理者や世話人等を対象とする研修会へ参加した。
- ⑥ 余暇活動・地域との連携
→ エコーンファミリーでの土曜活動、レクリエーション
地区の美化活動、誕生日会(利用者の誕生日に)、クリスマス会 など
- ⑦ 避難訓練・防災 → 第 1 回 10 月 16 日(月)PM4:30～PM5:00
第 2 回 3 月 27 日(火)PM4:30～PM5:00
内容:避難訓練・通報訓練・消火訓練(第1回:消防署立会いのもと実施)
・スプリンクラーの設置完了 12 月 20 日(水)
・防犯カメラ設置完了 3 月 20 日(火)
- ⑧ 健康診断 → 4 月 24 日(月)(エコーンファミリーと併せて実施)
12 月 12 日(火)夜勤職員対象

平成29年度 「短期入所事業ゆうゆう」 事業報告

1、事業方針

在宅等において介護者の疾病やその他の理由により、短期間の入所を必要とする障害者に対し、入浴、排泄、又は食事等の介護や日常生活上の支援を提供し、障害者等及び家族の福祉の向上を図ることを目的とする。

2、利用者・職員数

・利用者37名(内 男性28名 女性9名)
長野市:34名 千曲市3名

・職員数 管理者 1名
サービス管理責任者 1名
生活支援員 2名

3、事業成果

- ①入浴・排泄 必要に応じて介助や見守りを実施した。
- ②起床・入床 起床時間(6:00~7:00)
入床時間(20:00~22:00)本人の意思を尊重し、援助した。
- ③脱衣 必要に応じて介助、確認した。
- ④整容 毎食後の歯磨き援助、介助、確認。洗面の援助、介助、見守り等、個性を尊重した適切な整容を援助した。
- ⑤食事 栄養と利用者の身体状況や嗜好に配慮し、バラエティーに富んだ手作りの食事を提供した。

<月別利用者数>

4月	16名	5月	14名	6月	24名
7月	27名	8月	24名	9月	27名
10月	25名	11月	25名	12月	23名
1月	28名	2月	26名	3月	27名

(*年間利用者数 延べ 286名 利用回数 572回)

(*利用回数は 1泊2日=2回 でカウント)

平成29年度 「タイムケア事業」 事業報告

1. 事業方針

障害者の日常生活の継続的な支援を図るため、家族の急な用事・都合等の理由により、障害者の在宅での介護が困難な場合において、タイムケアを実施する。

2. 利用者・職員数(平成30年3月末日現在)

管理者	1名
サービス管理責任者	1名
支援員	1名(利用状況に応じて増員)

登録人数	長野市	25名	(男 15名 女 10名)
	千曲市	5名	(男 3名 女 2名)
	須坂市	1名	(男 1名)
	飯綱町	1名	(男 1名)
	計	32名	

3. 事業成果

家族の不幸等の急な都合により、在宅での介護が困難な場合に、職員体勢を整え、当施設でのタイムケアを実施した。

月別利用者数

4月	3名(15.75時間)	5月	5名(17.25時間)
6月	7名(24.75時間)	7月	7名(25.75時間)
8月	6名(31.0時間)	9月	6名(20.25時間)
10月	8名(28.0時間)	11月	6名(28.0時間)
12月	6名(32.0時間)	1月	6名(27.5時間)
2月	5名(32.0時間)	3月	5名(29.0時間)

年間延べ数

70名 (311.25 時間)

平成29年度 相談支援事業 事業報告

1、事業方針

- (1) 事業の運営に当たっては、市町村・障害福祉サービス事業所・他の関係機関等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善・開発に努めていきます。
- (2) 指定特定相談支援の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該障害者の立場に立って、支給決定障害者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行います。

2、職員数

- ・職員体制：相談支援専門員 1名

3、事業成果

- ・日常生活全般に関する相談（情報提供、連絡調整、相談等）
- ・アセスメントの実施
生活状況を把握・理解し、ニーズの把握に努めました。
- ・サービス等利用計画案の作成
特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行いました。
- ・サービス担当者会議の開催
市町村や障害福祉サービス事業者等、関係機関との連携を図り支援会議を開催しました。
学校在学者に対しては新たなサービス利用の相談や手続き等を行ないました。
- ・サービス等利用計画の作成
- ・継続的な評価「モニタリング」の実施

サービス等利用計画の作成	85件
	エコーン利用者 79件
	外部利用者 6件
モニタリングの実施	102件
	エコーン利用者 98件
	外部利用者 4件